

医療現場のビタミン剤・看護職のスペシャリストを育成する 公益社団法人日本看護協会 看護研修学校



このコーナーでは、市内在住の市民編集委員が清瀬に関連する施設や事業者の巡って、清瀬の特徴を紹介し



市民編集委員

高橋玲子さん
(上清戸在住・会社員)

看護師さんの仕事と言われたら、何を思い浮かべますか。

看護職(保健師・助産師・看護師・准看護師)の役割は「療養の世話」と「診療の補助」と定められています。その内容は多岐にわたります。目まぐるしく変わっていく医療の現場において、すべての人々のニーズに応える看護を届けられるように、看護のスペシャリスト「認定看護師※」が誕生しました。

梅園一丁目にある「公益社団法人日本看護協会看護研修学校」は、認定看護師を目指して全国から現役の看護職の方が集う学校です。
今回は同校の竹股喜代子校長と宇山泰司総務管理部長にお話を伺いました。



清瀬駅南口から徒歩10分程の場所に位置する「看護研修学校」。認定看護師を目指して、全国から約200人の現役看護職が集う

明日の認定看護師を目指して



今回お話を伺った、竹股校長(右)と宇山総務管理部長

訪れた日は、午後6時を過ぎても、多くの学生さんが教室や談話スペースで学習に励んでいました。グループ学習など、校舎が閉まる午後9時まで続くこともあるそうです。

看護研修学校に入学できるのは、5年以上看護師の実務経験がある方ですが、実際には10年以上の経験を持つ方が多く、そのほとんどがリーダークラスの看護師です。そのため非常に落ち着いた雰囲気、真摯に知識やスキルを高め、送り出してくれた病院の期待に応えようとしている様子がかがえました。

1987年に清瀬市に設立された看護研修学校は、現在、7学科(救急看護、集中ケア、皮膚・排泄ケア、感染管理、糖尿病看護、小児救急看護、認知症看護)の教育課程があります。

各学科には約30人の学生が集まり、1年間みっちり教育を受け、認定試験を経て、それぞれの病院に「認定看護師」として戻ります。全国で活躍する認定看護師の約2割が、清瀬の看護研修学校修了生です。

※日本看護協会が認定する、特定の分野において卓越した看護技術と知識を有し、実践・指導・相談を行う看護師のこと。

温かみあふれる校内 圧巻の図書館

患者さんと接する機会が多いからでしょうか。学生さんも職員の方も人当たりが柔らかく、校内も温かみのあるパステルトーンの色調が印象的でした。

看護・医療関係の図書が4万7千冊、専門誌が95誌、更に国内はもちろん海外の電子ジャーナルも利用できる図書館は、窓辺に学習スペースが設けられ、司書が検索などのサポートをしてくれます。

1949年創刊の機関誌「看護」など、歴史ある雑誌が創刊号からきれいに保管されながらも、すぐ手にとれるのにも驚きました。特別資料室に入ると目に飛び込んでくる「ナイチンゲール自筆の書簡」や「看護覚え書」初版本など貴重な資料にも圧倒されました。

大正時代の看護婦免許証や往診靴、診療の記録を取ったマイクロフィルムなど、人が人に寄り添って支えてきた看護の歴史を伺わせる資料は、見るだけで背筋を正される思いがします。



図書から雑誌まで、看護関連の書籍が集まる図書館。電子ジャーナルも利用できる

「認定看護師」の活躍



特別資料室に展示されている、ナイチンゲール著「看護覚え書」の初版

「認定看護師がいると、一般看護師への指導や普及も含めて明らかに看護実践の質が違います」と、竹股校長は話されます。

例えば、病気で胃や腸を切除し、肛門が機能を果たせない場合、人工肛門を付けることがあります。人としての尊厳を傷つけられるようなつらさに加え、取り扱いが難しいこともあり、周囲の皮膚がただれるなど苦勞は計りしれません。

認定看護師は、保護剤の選択、漏れない工夫、人工肛門をマークする(患者が最も扱いやすい場所を医師に示す)など、患者さんの日常生活の苦勞が少しでも減るよう、知識と技術のすべてを駆使して適切な看護を施します。

手術をするのは医師ですが、退院後も健やかに生活できるようにケアするのは看護師なのです。

清瀬市内でも17人の認定看護師が活躍しているそうなので、病院選びの参考にしてみるのもよいかもしれません。

「縁あって清瀬の地に設立された研修学校が、清瀬市の医療環境向上にもつながればうれしいことです」と、宇山部長は話されました。研修学校の学習機会や講習が、市内の看護職を支えてくれることを期待します。

社会の期待・人々の ニーズに応える看護

看護研修学校は、「社会や人々の期待に応える質の高い看護」を目指し活動しています。現在の高齢社会においては、病院ではなく療養施設や在宅での看護、病状の細かな段階に合わせた看護が求められるなど、臨床の課題は時代や社会の状況によって変化し、国の施策も変化していきます。このため、研修学校での教育内容も社会の動きを見据え、臨床の課題に沿ったものであるよう、教職員も日々勉強を積み重ねています。

研修学校を修了し認定看護師となっても、「まだまだスペシャリストとしてのスタートです」と、竹股校長。

資格は5年ごとの認定更新制で、規定の実践時間や自己研鑽実績が審査されます。

研修学校では、看護実践の質を向上するために、47都道府県の看護協会と連携して年に7回の領域別の学術集会の企画開催や、修了生だけでなく、すべての看護職を対象にして継続的に学習できるような研修も行っています。

今後は全国153万人の看護職が時間や場所に制約を受けずに受講できる、インターネットを使った「オンデマンド研修」を更に充実させたいそうです。

「備える」大切さ

学校といえども看護職の集団である限り、教育以外の役割もあります。東日本大震災の時には、かなり初期の段階で、研修学校からも教員が被災地へ向かい、災害支援を行いました。



実習室も、実際に学生が緊張して実習をする場面もあるが、マジックミラーを介して、講師がチェックしている場面で、学生の力を発揮しやすい。

この経験は、医療機関として「備える」ことへの示唆になりました。非常時に具体的にどう動けばよいか、研修学校ではプロジェクトチームを作り、対策を進めています。緊急事態のなかでも、後悔しない動き方ができるように、組織のなかで体制をしっかりと作っておくことが、現在の課題だそうです。

また、「今後、清瀬市に立地する研修学校として、市や市民の皆さま方との交流、ネットワークを持つための取り組みを進めたいです」と、竹股校長は今後の展望を語ってくださいました。

取材を終えて

市内に看護のスペシャリスト集団がいることは、とても心強くと感じました。

清瀬駅付近で心肺停止状態だった方を救い、表彰された学生さんもあるそうです。全国から清瀬に集った多くの看護師さんが臨床で更に活躍されることを願います。

そして、市内医療関係者の皆さんにはこの近距離にある看護研修学校をより一層知り、研修の機会を得て成果を地元に戻元してもらえたらいいと思います。